

静岡
SHIZUOKA

ファルマバレー・プロジェクト発の トレーニング施設誕生

—スポウエル健身塾サントムーン柿田川—

静岡県が、富士山麓地域への健康産業の集積を目指しているファルマバレー・プロジェクト。その柱の1つが、小林寛道東京大学名誉教授（しずおか健康長寿財団副理事長）が開発した認知動作型トレーニングによる健康づくり。

小林名誉教授は、日本陸連の科学委員長を務めていたことから、トップアスリートの競技力向上を目的として、マシンを開発し、マラソンの谷川真理さんなどが利用して大きな効果を上げた。さらに東京大学の生涯スポーツ健康科学研究センターや、静岡県総合健康センター（三島市）の研究により、体幹深部筋の増強が、寝たきり予防に非常に有効であること、脳・神経回路への作用が、認知症改善や知的障害者の生活変容に効果があることなどが検証されている。

この理論を活用したトレーニング施設「スポウエル健身塾サントムーン柿田川」が1月31日にオープンした。



広さは約330m²で、認知動作型トレーニングマシン11種類、29台を設置している。昨年、増床リニューアルして一段と集客力を増した商業施設「サントムーン柿田川」の一角にあり、名水百選の1つとして知られる柿田川とは、国道1号線を挟んで隣り合わせの立地だ。

健身塾を運営するのはスポーツ・ウェルネス総合企画研究所で、「スポウエル健身塾」のスポウエルは、スポーツ・ウェルネスを略した造語である。



2008年度から、医療保険者に対して特定健診・特定保健指導が義務づけられる。厚生労働省も「一に運動、二に栄養……」とするが、運動指導に関しては、手探り状態の医療保険者が多い。認知動作型トレーニングは、体幹深部への作用を特徴としているので、内臓脂肪の燃焼に効果的で、メタボリック・シンドローム対策には好適だとされている。

同塾には、高地トレーニングと同様の効果が得られる「低酸素トレーニングルーム」が設置されており、アスリートの競技力向上だけでなく、メタボ対策をはじめとする中高年層の健康づくりにおいても効果的だろう。

医療費・介護保険費など公的負担の軽減は、国・地方を問わず、喫緊の課題となっている。新しい健康サービス産業の可能性を開く同塾への注目度は高い。オープンに先立って行われたセレモニーには石川静岡県知事がメッセージを贈るなど、ファルマバレー・プロジェクトの具体的な果実として、静岡県も大きな期待を寄せている。

神奈川
KANAGAWA

横浜市北部のアクセス向上

—商業・業務系施設の進出に拍車—

横浜市北部の交通アクセスが、この春飛躍的に向上した。JR東海のダイヤ改正で、東海道新幹線の全列車が新横浜駅に停車。横浜市営地下鉄の新路線「グリーンライン」も開通した。これに伴い、沿線に商業・業務系施設の進出が相次いでいる。

3月15日のダイヤ改正で、東海道新幹線の「のぞみ」と「ひかり」の全列車が新横浜駅に停車。両列車の停車本数は、従来の一日138本から204本へと1.5倍に増えた。「こだま」を含めると、278本が止まる。

同駅の新幹線乗車人員は、のぞみ停車駅となった1991年に一日約1万8千人だったが、06年には約2万8千人に増加。今回のダイヤ改正で、東京、名古屋、京都、大阪と並ぶ拠点駅に位置付けられたことにより、さらなる増加が期待される。

JR東海はこれを先取りして、大型駅ビル（地上19階地下4階建て、延べ床面積約9万m²）を建設した。総事業費は約260億円。商業施設部分「キュービックプラザ新横浜」は3月26日、ホテル部分「アソシア新横浜」は4月1日に開業した。



「キュービックプラザ新横浜」と「ホテルアソシア新横浜」が入るJR新横浜駅の駅ビル

キュービックの核テナントは大型ディスカウントストア「ビックカメラ」で、初年度売上目標は120億円。「デパ地下を移設した」という触れ込みの「タカシマヤフードメゾン」などを含

めた83店舗の合計売上目標は、年間270億円に達する。

駅ビルには、テナントとしてオフィスも入るが、

スタート時から満室。駅周辺でも今後1、2年、オフィスやホテルの建設ラッシュが見込まれる。みなとみらい21地区などに比べて出遅れ感のあったビル供給に、新幹線の全列車停車が火を付けた形だ。

一方、「グリーンライン」は、3月30日に開通した。路線は中山駅（JR横浜線に接続）～日吉駅（東急東横線に接続）間13.1キロで、途中のセンター南駅とセンター北駅で既存の「ブルーライン」（あざみ野駅～湘南台駅）に接続する。

同線の開通により、港北ニュータウンなど市北部から市中心部や東京都心部へのアクセスが飛躍的に向上した。このチャンスを逃すなどばかり、周辺では昨年春以降、「ららぽーと横浜（07年3月）」「港北MINAMO（07年7月）」「トレッサ横浜（08年3月）」など商業系施設の開業が相次いでいる。

市北部の港北、都筑、青葉の3区は、最近5年間で人口が約5万8千人増えて合計約81万人となるなど、人口流入が活発。また、30代前後のファミリー層の居住割合や所得水準が高いことも、商業系施設の開発業者にとって魅力になっているようだ。



横浜市北部の横断軸として3月30日に開通した市営地下鉄「グリーンライン」